広報 第984号
いながわ
8月
令和3年
(2021年)

「今年も給食で、みんなに食べてもらうために、朝から採ってきたよ!!(学校給食センター・詳細30ページ)

特集 歴史を未来へ
～多田銀銅山遺跡～

TOPICS
新型コロナ関連情報 9

7月18日執行
猪名川町長選挙および町議会議員補欠選挙の結果 8
子どもたちにつけたい力 10
瞬(ときめき) 伊達 広輝さん 25
いながわ特派員報告
朝のサイクリングで猪名川めぐり 28

ミヤマクワガタも木陰でひと休み(上野)

歴史を未来へ

～多田銀銅山遺跡～

多田銀銅山は、猪名川町 銀山地区を中心に、川西・宝塚・池田・箕面市、能勢・豊能町の7つの市町にまたがる鉱山の総称です。

今号では、多田銀銅山の概要と近年行っている調査、地域で歴史を守り伝える人たちの活動やその思いなどを紹介します。

▼**問合せ**　社会教育室（☎767・2600）

青木間歩の内部に残る銅の鉱脈

大切に保存し、後世へ残す

建物や工作物など、昔の人々の生活の痕跡が残っているものを「遺跡」といいます。遺跡は、一度壊れてしまうと元には戻せないため、調査して大切に保存し、先人たちの知恵や生活を歴史として、後世に残していかなければなりません。

銀山地区の調査開始

多田銀銅山では、平安時代から昭和48年に閉山するまで、約千年以上にわたって銀や銅、顔料といった様々な鉱物の採掘が行われました。しかし、詳細な文化財調査などは行われておらず、その歴史的価値は誰にも認知されていませんでした。

多田銀銅山の歴史

奈良時代（710年～）

多田銀銅山の前身となる鉱山の始まりは、奈良時代。現在の猪名川町 民田千軒地区、川西市 国崎地区を中心に銅の採掘が行われており、江戸時代の古文書には、「奈良の大仏を造る際に銅を献上した」という言い伝えがあると残されています。

平安時代（794年～）

「多田銀銅山」の「多田」という地名の由来は、平安時代の武士である源満仲が、公的支配を受けない一定規模以上の私有地である「多田荘」を開き、現在の猪名川町域を含む一帯で、鉱山などの土地開発をしていたといわれています。

安土・桃山～江戸時代（1573年～）

安土・桃山時代から江戸時代にかけて、銀山地区で多くの鉱石が採掘された記録が残されています。

特に江戸時代には、1660年代に代官所が設置されるなど、幕府の直轄地として、直径約12kmにわたる多田銀銅山の中心であったと考えられています。1664年には、年間採掘量が最大を記録し、約453トンの銅が産出されたといわれています。

明治～昭和時代（1868年～）

明治時代以降も採掘は続き、明治10年に銀山地区と民田千軒地区を中心に行われた採掘では、全国第4位の産銅量を記録しました。

その後も、鉱山事業は続きましたが、戦後以降は安くて品質の良い外国産資源が輸入されるようになり、1973年に鉱山としての役目を終えました。

遺跡の見どころ

①**代官所跡**＝江戸時代、銀を含む大鉱脈の発見を機に設置された役所の跡地。
②**堀家製錬所跡**＝明治時代に操業された製錬所の跡地。多田銀銅山悠久広場として整備。　③**金山彦神社**＝1664年、鉱山業の繁栄と安全を願って建立されたことが、ご神鏡に記されている。

③

②

①

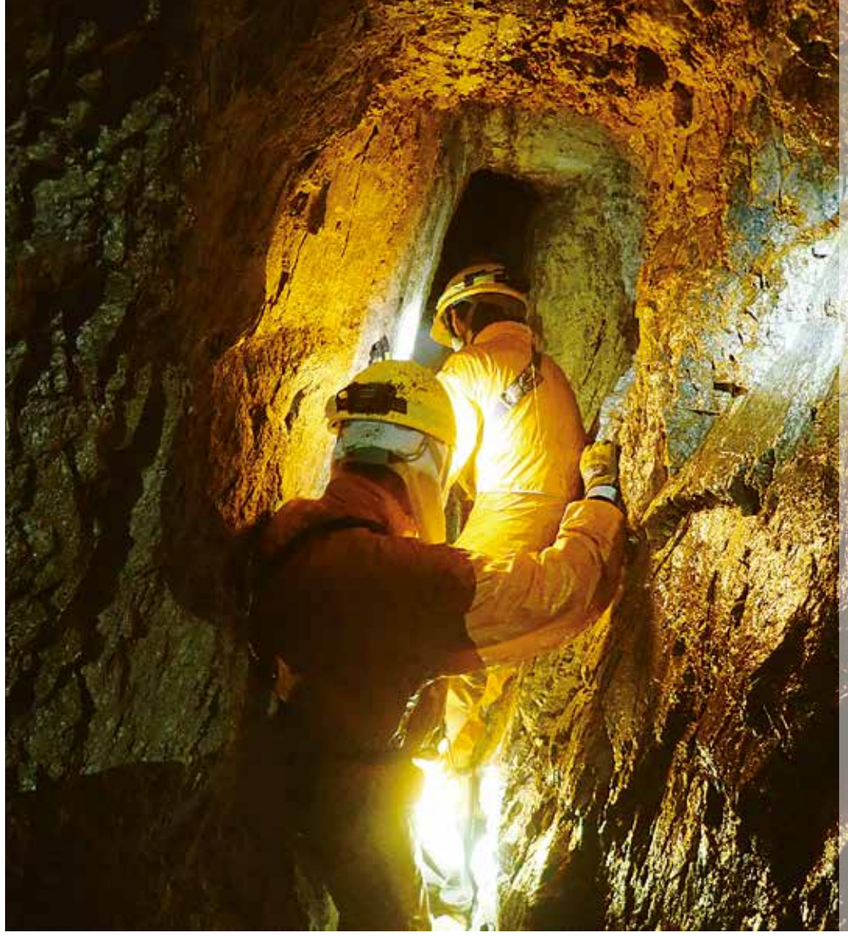
そのような中、昭和60年頃に行われたニュータウンやゴルフ場などの大規模開発の計画に先立ち、様々な団体が行った調査で、各所から鉱山に関連する遺跡が発見されました。これをきっかけに、町では多田銀銅山の歴史的価値を確認するため、銀山地区を中心に平成12年から本格的な調査を始めました。

鉱山遺跡で県内初の「国史跡」

調査開始当初は、「青木間歩」や「代官所（役所）跡地」の遺跡のほか、在来の民家などに保管されていた絵図や古文書などの遺物の調査を行いました。

平成19年には、歴史資料館「多田銀銅山 悠久の館」を開館し、遺物の展示や企画展などを通じて、多くの人にその歴史の紹介をしています。

銀山地区には、江戸時代以降の採掘・製錬技術や鉱物の産出量などのわかる史料のほか、当時の人々の暮らしを感じることができるまち並みや生活用品などが大切に残されています。これらの歴史・学術的価値が評価され、平成27年に銀山地区の一部が県内の鉱山遺跡で初めて「国史跡」に指定されました。



残された史料を手掛かりに

受け継がれてきた史料

多田銀銅山の調査の手掛かりとなるのが、江戸時代に代官所の役人が作成した絵図や古文書です。それらには、道や川、坑道（間歩）のほか、当時の生活文化なども描かれています。

これらの史料は、役所にあるはずの「公文書」ですが、明治維新の際、他の地域への散失を防ぐため銀山周辺の民家の蔵などに隠されたようです。これが功を奏し、多くの貴重な史料が現代に残される結果となり、多田銀銅山が国史跡に指定された大きな要因の1つにもなりました。

絵図や古文書に記された坑道を確認

多田銀銅山の区域内には、2千を超える坑道があります。残された史料には、坑道に関する情報も多く、調査のカギを握るものとなります。

坑道内調査は、撮影や測量などをロボットの力も借りて実施しています。アリの巣のように広がっている坑道の様子や、掘られた金属の種類や採掘技術なども明らかにしていきます。

坑道で採掘する様子
「吹屋之図」（九州大学総合研究博物館所蔵）

江戸時代の銀山町の地図
「銀山町間歩絵図」（町内寺院所蔵）

江戸時代の役人の日記
「日鑑」（個人蔵）

絵図と古文書

科学のチカラで進む調査

坑道内は狭く、人が入ることの難しい場所が多くあります。そこで、人に代わってロボットが、坑道内部や急斜面などを調査しています。

これらは、松江工業高等専門学校の協力によるもので、ロボットのほかにも撮影・測量機器など、最先端の「科学技術」が調査に役立てられています。

調査方法①

狭い坑道の内部を撮影

坑道は、縦約 90㎝、横約 60㎝で、人が１人入ることが精一杯の小さなものや、崩落している箇所もあります。安全に調査を進めるために、調査ロボットで内部に侵入し、写真や動画を撮影します。

▲調査ロボットが絵図（左）に描かれている鉱山道具（右）を発見＝坑道内の移動に利用した打カイ（足場）と布木（持ち手）が一緒に発見されたのは、全国の鉱山調査で初めて。史料に描かれた打カイや布木が同じ場所で使われていたということが確認できました。

調査方法②

３次元レーザースキャナで測量

坑道内でスキャナからレーザー光を照射し、坑道壁面などに当たって反射したレーザー光をスキャナが受信することで、壁面の座標を取得します。これを繰り返し、座標を重ね合わせ、坑道内の形状を再現することができます。

▶３次元レーザースキャナ搭載ロボットの測定様子

▶３次元レーザースキャナ測定から算出した坑道側面形状

科学のチカラが歴史を紐解く手助けに

近年の科学技術は驚くべきスピードで進歩しています。平成21年から開始した坑道調査には、「レーザーセンサー」を使用しており、特に近年は３次元レーザー測定機の発展に伴い、より早く・正確に坑道内を測定できるようになりました。

私たちの研究成果が調査に活かされ、過去を紐解く手がかりとなり、皆さんが多田銀銅山に興味を持つきっかけになれば、とても嬉しく思います。

私自身、これまで全国３００以上の鉱山坑道跡の調査に携わってきましたが、多田銀銅山は、比較的当時の姿のまま残されており、調査のたびに色々な発見があります。回を重ねるうちに、坑道やその背景にある当時の人々の暮らしに想いを馳せる楽しさに魅了されています。

松江工業高等専門学校
電子制御工業科 教授
久間（くま） 英樹さん

歴史を守り伝える

多田銀銅山の調査や魅力の発信には、地域住民の皆さんの協力が必要不可欠です。地域としての協力だけでなく、調査のお手伝いもしていただいている銀山自治会長の橋本さん。町内外にその魅力を発信している町観光ボランティアガイドの会会長の西尾さんに多田銀銅山への想いを聞きました。

生まれ育った銀山の歴史を後世に

銀山自治会長
橋本 光彦さん

私にとって多田銀銅山は、子どもの頃から身近にある「当たり前の存在」でした。

特に重要なものという認識はなかったのですが、地元住民向けに町の学芸員さんや専門家の方々が開いてくれる調査の報告会に参加しているうちに、「生まれ育った銀山の歴史を後世に残していかないといけない」という気持ちが芽生えてきました。今は、少しでも力になれればと思い、町が行う調査に同行し、微力ながらお手伝いさせてもらっています。

銀山地区は高齢化や人口減少が進んでいますが、多くの人に訪れてもらうことで地域が活気づきます。ぜひ気軽に散策にお越しください。

多田銀銅山遺跡は猪名川町自慢の財産

町観光ボランティアガイドの会会長
西尾 圭子さん

私たち観光ボランティアガイドは、猪名川町を訪れる人や町内にお住まいの皆さんに、まちの歴史や文化、魅力などを紹介しています。

多田銀銅山遺跡は、ガイド案内の申し込みのうち約8割を占める人気スポットなんですよ。

私が多田銀銅山を好きになったのは、勉強会に参加したことがきっかけで、多田銀銅山での先人たちの生活や文化、豊臣秀吉の埋蔵金伝説などを知り、皆さんにも歴史ロマンを感じてもらいたいと思うようになったからです。

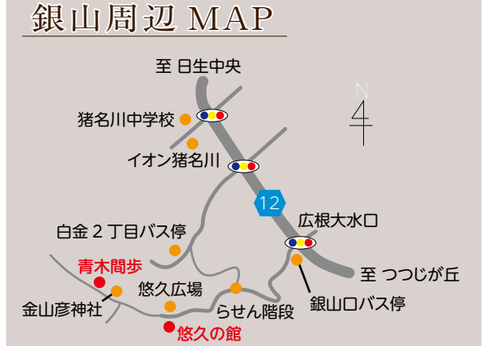
これからも、まちの自慢である多田銀銅山遺跡の魅力を皆さんに伝えていきたいと思います。ぜひボランティアガイドをご利用ください！

悠久の歴史を感じる 青木間歩

青木間歩（まぶ）は、町内で唯一見学することができる坑道です。

▷**見学時間**　午前9時～午後5時

※坑道内をスマートフォンやタブレットからも見ることができます。視聴方法など、詳細は町ホームページ



※車でお越しの際は、悠久の館および悠久広場の駐車場をご利用ください。悠久の館より北へは、徒歩での散策となります。

多田銀銅山 悠久の館

▷**休館日**　毎週月曜日（祝日の場合は翌日）

▷**開館時間**　午前9時～午後5時

▷**問合せ**　同館（☎766－4800）

多田銀銅山を「学習」と「交流」の場に

猪名川町は多田銀銅山という鉱山と共に歩んできたまちで、域内に鉱山がない周辺の村々も、その影響を受けていたようです。しかし、その歴史も人々の記憶から薄れ、埋もれていきます。

文化財調査は、そのような地域の個性を紐解き、価値を見出すことだと思っています。そして、これらの歴史文化遺産の周知はまちづくりにも繋げられると思っています。

その一環として多田銀銅山の中心である銀山地区を「学習」と「交流」の場とするため、毎年秋に企画展を行っています。毎年少しずつですが、新たな発見もありますので、ぜひお越しください。猪名川町といえば、「多田銀銅山」と、誇りに思っていただけるよう、今後も調査、研究、公開に取り組んでいきます。

教育振興課社会教育室
青木 美香 学芸員